

日本教育保健学会第23回年次大会のご案内（第2報）

大会テーマ

教育保健の視点で発想する子どもの育ちと学び～GIGA スクール構想と教育保健～

このたびは、日本教育保健学会第23回年次大会を東洋大学赤羽台キャンパス（東京都北区）にて開催することとなりました。大会テーマは「教育保健の視点で発想する子どもの育ちと学び～GIGA スクール構想と教育保健～」とし、GIGA スクール構想の進展や ICT の急速な発展により変化する教育環境の中にいる子どもの心身の健康と新しい学びの在り方について、教育保健の視点から総合的に議論する場にしたいと考えています。

当日は、一般演題発表に加え、GIGA スクール時代における教育保健の課題と可能性を多角的に捉えるシンポジウム、生成 AI の普及を見据えた ICT 教育の今後を展望する特別講演、さらに子どもの視点に立った学びの環境を探究する共同研究報告など、多彩なプログラムを予定しております。多くの皆様にご参加いただき、多様な情報共有と活発な意見交換を行う貴重な機会となるように準備しております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。



1. 開催日時

2026 年 3 月 20 日（金祝）・21 日（土）

2. 会 場

東洋大学赤羽台キャンパス（東京都北区赤羽台 1-7-11）

最寄り駅 JR 赤羽駅 or 東京メトロ南北線赤羽岩淵駅

最寄駅からのアクセス

○JR「赤羽」駅：西口出口から徒歩 8 分

○東京メトロ南北線「赤羽岩淵（N19）」駅、

埼玉高速鉄道「赤羽岩淵」駅：2 番出口から徒歩 12 分

○国際興業バス「赤羽台三丁目」バス停：徒歩 2 分



アクセス

https://www.toyo.ac.jp/assets/about/20230401_campus_map_akabanedai.jp.jpg

3. 参加費：

会員・非会員 5,000 円（講演集含む）

大学院生 2,000 円（講演集含む）

学部学生 1,000 円（講演集含む）

振込先

日本教育保健学会 ニホンキョウイクホケンガッカイ

ゆうちょ銀行の場合：普通預金【記号】10100【番号】72582331

他の金融機関の場合：【店名】〇一八【店番】018 普通預金【口座番号】7258233

＊手数料は別途お支払いください。

＊事前参加登録および支払い締め切りは2月28日です。

2月28日以降は学会当日に会場での登録および支払いとなります。

4. プログラム

【3月20日（金）】

12:00 受付開始

12:30 開会行事

12:45 シンポジウム「GIGAスクールと教育保健」

①GIGAスクールと子どものからだ（中島綾子：文教大学附属小学校 養護教諭）

②保健室におけるICT活用（阿部大樹：東京都公立小学校 養護教諭）

③GIGAスクール時代の保健授業実践（田中良：日本体育大学 助教）

14:30 休憩

14:45 一般報告①

15:45 休憩・移動

16:00 総会

17:30 懇親会

【3月21日（土）】

09:00 一般報告②

10:00 休憩

10:15 特別講演「生成AI時代のICT教育」佐藤学（東京大学名誉教授）

11:45 休憩

13:00 共同研究報告「子どもが求める学び環境の教育保健学的探究」

①日本の学校の現状と望ましい学校づくり（鎌田克信：東北福祉大学 准教授）

②学び環境の実態と新たな学び環境づくり（近藤真庸：岐阜大学名誉教授）

③子どもが求める保健室づくり（鹿野晶子：日本体育大学 教授）

14:10 休憩

14:25 一般報告③

15:25 休憩

15:30 閉会行事

*一般報告の演題登録締切は2026年1月16日（金）です。

*一般報告は口頭発表のみです（ポスター発表はありません）。

*1演題につき発表20分、質疑応答10分の合計30分間を予定しています。

*演題登録後に学会HPから抄録のひな型をダウンロードして抄録を作成し提出してください。

抄録提出締切は2026年2月1日（日）、提出先メールアドレスはjahe23rd@gmail.comです。

*筆頭演者は2026年2月28日（土）までに「事前参加登録」を行い、同日までに大会参加費の支払いを行ってください。2月28日（土）までに「事前参加登録」および「大会参加費」の入金を確認できなかった場合、演題申込が無効となることがあります。

5. 年次大会事務局

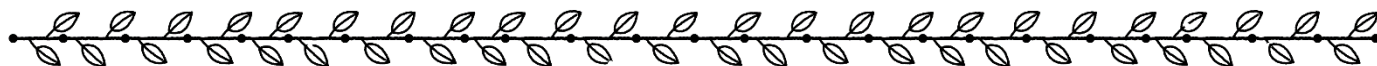
東洋大学 〒115-8650 東京都北区赤羽台 1-7-11

担 当：中村富美子

連絡先：jahe23rd@gmail.com

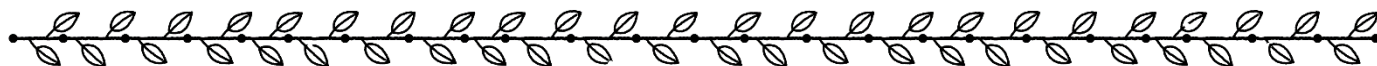
HP: <https://jahe23hp.wixsite.com/website>

Instagram: https://www.instagram.com/educational_health23/



2025年 第2回フォーラム 「マサイの子どもたちの育ちと学び」の報告

田曉潔（Xiaojie TIAN）氏（筑波大学体育系 体育専門学部 准教授・博士）



2025年10月26日（日）日本体育大学にて、第2回フォーラム「マサイの子どもたちの育ちと学び」と題して、田曉潔（Xiaojie TIAN）氏（筑波大学体育系 体育専門学部 准教授・博士）のお話がありました。今回は2013年からスタートした「牧畜民マサイ」を対象とした長年のフィールド調査から得られた研究の成果をご報告していただきました。

マサイでは、歩けるようになった子どもたち（幼児）は、家畜の世話や幼獣の見張りを任されるようになり、自分の家の家畜は見分けることができるようになります。さらに、男子はホームステッドと言われる自宅敷地周辺で放牧を、女子は薪の採取を主な仕事として任されるようになり、1日の歩数は男子2万歩以上、女子1万7千歩、移動距離で男子は20km、女子は10kmにもなりますが、その多くは、子ども同士での移動となり、大人が同行することはありません。

子どもたちは、それらの仕事をする中で、様々な遊びを展開していきます。田先生の調査によると、子どもの聴き取りから412件の遊びを収集、その後の追跡調査から収集できた286件の内64%が集団遊びで、仕事をしながらの遊びがほとんどであることが分かっています。家畜ごっこ（幼獣の移動）、家ごっこ（料理・掃除・野菜や皿洗いごっこ）、放牧しながら家畜の尻尾をつかんで滑って遊ぶなど、家畜の関係性で生まれる遊び、さらには、牛やゾウの糞を使って家を作ったり、遊び道具を作ったりすることもあるようです。

マサイでは、相互的尊敬心と自立を育む子育て環境があり、一人前の生業貢献者として社会的に認められる子ども像があります。子ども自身が仕事と遊びを選択し、実行することができる構造があり、おとなにとって、信頼を前提とした子育てがそこにはあるからこそ、おとなは見守る立場をとっています。

2024 年にはマサイでのフィールド調査をまとめた『Maasai Childhood: The Rhythm of Learning in Daily Work and Play Routines』を出版されていますので、マサイの子育てに興味のある方はご覧いただけたらと思います。

事務局より 2025 年の年会費納入のお願い

加入者名：日本教育保健学会

編集：広報委員会
（鎌田克信：東北福祉大学）
TEL/FAX: 022-301-1143（研究室直通）
e-mail: k-kamada@tfu.ac.jp

編集：広報委員会

(鎌田克信：東北福祉大学)

TEL/FAX: 022-301-1143 (研究室直通)

e-mail : k-kamada@tfu.ac.jp